

中間報告書

令和元年 10 月 3 日現在

1 事業名
備中神楽で楽しみ広がる役に立つ・開かれた地域と交流型観光資源開発事業

2 実施期間 2019 年 6 月 3 日～ 2020 年 3 月 31 日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

備中神楽を通して地域を誇りにおmoi、地元の価値を発見する。また、事業を通して備中神楽を知ってもらう人口を増やす。結果、観光ツアーやルートのプログラムの一つとなり、備中地方の観光資源の一つとなること。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

●映像関連●

2019/7/27 & 9/7 : 備中神楽をスマホで簡単撮影・編集・YouTube にアップする方法講座開催、県立大学デザイン学部長 嘉数先生

●備中神楽の社中（支部）の横連携●

2019/4～現在：本事業を通して、神楽師のところに行き現状をヒアリング

●クロスカルチャーKAGURA フェスティバル●

2019/9/27 : クロスカルチャーKAGURA フェスティバル 神楽師、音楽家 初顔合わせ

<今後、実施すること>

●映像関連●

2019/10～12 : 神楽が盛んになる時期に、講座受講生と神楽を実際撮影

2020/1 : 講座受講生の撮影した内容をフォローアップ、最終的に短編動画を制作

●備中神楽の社中（支部）の横連携●

引き続き、折を見て新しい神楽師を会い、ヒアリング

●クロスカルチャーKAGURA フェスティバル●

2019/10～11 : 広報関係を整える（ネット発信、チラシやポスターなど）

2019/10～2 : 音楽家、神楽師との打合せを随時行う

2019/11/20 : 全体合わせ

2019/1 月中 : 全体合わせ、本番前リハ

③ これまでの成果・効果。今年度 事業終了後の成果・効果の見込み

●映像関連●

当初予定では、備中神楽に興味をもってもらえるドキュメンタリー映像を制作しようとしていたが、より発信の広がり求め、備中神楽を撮って発信する人が増える仕組みとして、公募の市民参加型で“スマホで動画撮影・編集・YouTube でアップできる講座”を開催することに変更した。今回は備中神楽だけではなく、観光案内

をしている方など動画編集自体に興味がある方の参加もあったが、これを機に新たな層への広がり期待する。次年度からも同じような講座を NPO 主体で行い、備中神楽の動画発信から県内・県外への繋がりを模索していきたい。

●備中神楽の社中（支部）の横連携●

まだまだ全体を回れたわけではないが、現状の神楽に携わってきている方々の考えを収集し、それぞれの社中が重んじていることがわかってきた。今後 イベントやプロジェクトを動かす際の考慮事項として参考にしていきたい。

●クロスカルチャーKAGURA フェスティバル●

今回の企画を通して、現在の神楽に携わっている人の声を聞いたことがよく、現段階で実行可能な神楽と新規音楽との融合ができることは成果だと思う。本企画に賛否両論はあるが、既存の神楽の雰囲気や損なわないように、密にコミュニケーションを図って対話しながら創り上げて発表できることで、新しくも更に神楽の新たな魅力や可能性を引き出す企画としていきたい。新たなファン層の獲得も期待する。

④ 課題等

●映像関連●

神楽師側から備中神楽を知ってもらうために発信する、という発想があまりない為、発信して知ってもらう必要性を浸透させていくこと。

●備中神楽の社中（支部）の横連携●

今でこそ人手不足、後継者不足、祭りの減少により披露する場の減少等 課題は共通なもの、一昔前は神楽師も披露する祭りも存続していたため、型や振り付けが微妙に違う他社中との連携が必要ではなかったこと等が要因での名残なのか、神楽社中同士の連携は今もあまり見られない。当 NPO 法人が目指すのは、各社中同士の存続はもちろん、備中神楽として国指定重要無形民俗文化財としての岡山県の文化資源としての神楽の存続、発展なので根気よく、神楽の担い手・及びファン（活躍する場）の創造することをどれだけの人が参画してくれるかが課題。

●クロスカルチャーKAGURA フェスティバル●

新しい挑戦ではあるので、神楽師の意見をいかに汲み取ってフェスティバルに昇華させるかが課題。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した

収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他